

欧米へのキャッチアップが期待される日本企業の株主還元

— 企業の「株主重視」姿勢により株主還元は増加傾向 —

- ・ 日本企業の株主還元は、アベノミクス以降着実に増加しています。
- ・ 配当性向を欧米企業と比較すると、日本企業の株主還元の拡大余地は大きいとみられます。

「株主重視」が株主還元増加の契機に

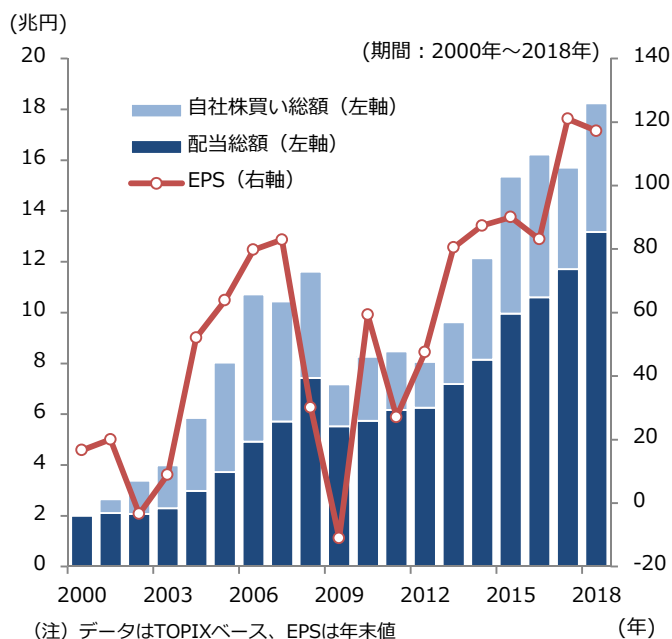
株式に投資することにより、投資家は株式の値上がり益（キャピタルゲイン）と、株式の配当金（インカムゲイン）を享受することができます。近年、配当金は増加傾向にあります。超低金利かつ先行きが不透明な投資環境において、定期的に受け取れる配当金はとても魅力的に思えます。2009年はリーマンショックの影響による企業業績の悪化を受けて配当総額（TOPIXベース）は減少したものの、その後は企業収益が前年割れをしたときでも、配当は着実に伸びています（図表1）。また、自社株買いを合わせた株主還元額も増加傾向にあります。

配当金増加の背景にあるのが、安倍政権「第3の矢」となる「日本再興戦略」の取り組みの一環として策定されたスチュワードシップ・コード（2014年2月）とコーポレートガバナンス・コード（2015年6月）です。企業と投資家の建設的な会話が促進されたことにより、企業の株主還元に対する意識は高まり、「株主重視」を打ち出す企業が増加しました。また、機関投資家による企業の現預金の使途への言及も増加しました。その結果、2018年の配当と自社株買いの合計は2013年比で89.5%増加しています。

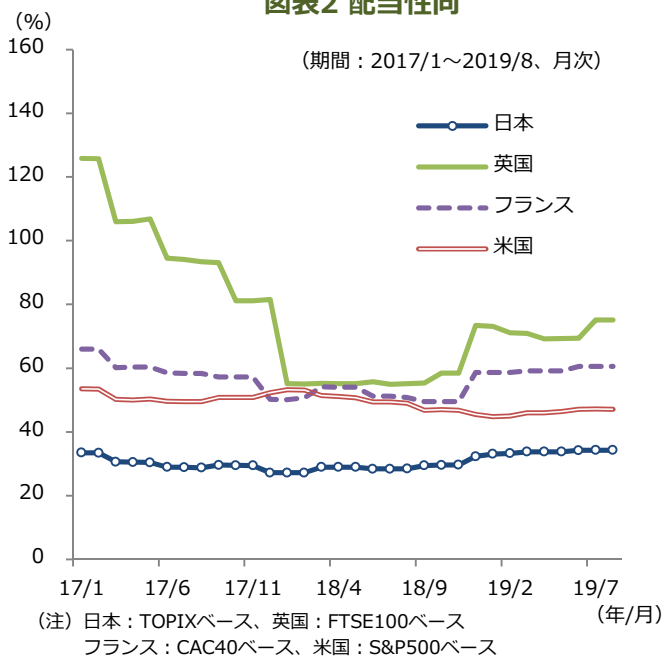
上昇余地のある配当性向

一方、配当性向は30%台で足踏みしており、欧米（英：75%、仏：60%、米：47%）と比較すると上昇の余地は十分にあると思われます（図表2）。先日発表された法人企業統計によると、日本企業の内部留保は7年連続で過去最高を更新しています。その内部留保を株主還元の拡大にあてるケースが増える可能性はあると考えられます。今後も日本企業の「株主重視」により株主還元が増加し、日本株式が評価されれば、海外勢の買いが入るなど株価の上昇も期待されます。

図表1 株主還元額とEPS（1株当たり利益）の推移



図表2 配当性向



(図表1-2の出所) Bloombergのデータより岡三アセットマネジメント作成

以上 (作成：投資情報部)

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■ 本資料は、投資環境に関する情報提供を目的として岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、特定のファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■ 本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■ 本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 投資信託の取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡しますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。

皆様の投資判断に関する留意事項（2019年8月末現在）

【投資信託のリスク】

投資信託は、株式や公社債など値動きのある証券等（外貨建資産に投資する場合は為替リスクがあります。）に投資しますので、基準価額は変動します。従って、投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた損益は、すべて投資者の皆様に帰属します。

【留意事項】

- 投資信託のお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 投資信託の収益分配は、各ファンドの分配方針に基づいて行われますが、必ず分配を行うものではなく、また、分配金の金額も確定したものではありません。分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

【お客様にご負担いただく費用】

- お客様が購入時に直接的に負担する費用
購入時手数料：購入価額×購入口数×上限3.78%（税抜3.5%）
 - お客様が換金時に直接的に負担する費用
信託財産留保額：換金時に適用される基準価額×0.3%以内
 - お客様が信託財産で間接的に負担する費用
運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担
 ：純資産総額×実質上限年率2.052%（税抜1.90%）
 ※実質的な負担とは、ファンドの投資対象が投資信託証券の場合、その投資信託証券の信託報酬を含めた報酬のことをいいます。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料**
- 監査費用**：純資産総額×上限年率0.01296%（税抜0.012%）
 ※上記監査費用の他に、有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、海外における資産の保管等に要する費用、受託会社の立替えた立替金の利息、借入金の利息等を投資信託財産から間接的にご負担いただく場合があります。
 （監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額若しくはその上限額又はこれらの計算方法を示すことはできません。

【岡三アセットマネジメント】

商号：岡三アセットマネジメント株式会社
 事業内容：投資運用業、投資助言・代理業及び第二種金融商品取引業
 登録：金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号
 加入協会：一般社団法人 投資信託協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会

上記のリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。各費用項目の料率は、委託会社である岡三アセットマネジメント株式会社が運用する公募投資信託のうち、最高の料率を記載しております。投資信託のリスクや費用は、個別の投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に、個別の投資信託の「投資信託説明書（交付目論見書）」の【投資リスク、手続・手数料等】をご確認ください。

<本資料に関するお問い合わせ先>

フリーダイヤル 0120-048-214（9:00～17:00 土・日・祝祭日・当社休業日を除く）